

半導体・エレクトロニクス産業を 理解するためのブックガイド

2026年7月28日（火）ラジオ日経マーケット・テラス

合同会社なおい企画代表

日経CNBCキャスター

直居敦

①『半導体 先端覇権の興亡』

- 大鹿靖明著、講談社（2026年5月第一刷）
- かつて「電子立国」と称された日本の半導体産業は、日米貿易摩擦を経てアメリカに頭を押さえつけられたうえ、技術力で劣ると侮っていた韓国や台湾の急迫を受け、1990年代後半以降、急速に衰退した。エルピーダメモリは倒産し、富士通やパナソニック、三洋電機の半導体工場は相次いで外資にたたき売られた。
- 著者は朝日新聞の記者だったが、2026年退社
- かつて世界を席巻した日本の半導体産業はどこで何を誤ったのか
- 経済安保の旗のもとラピダスに巨額の国費を投入する官邸、経産省。奇跡の復活は可能なのか？

② 『半導体有事』

- 湯之上隆著、文芸春秋（23年月第一刷）
- DRAMから撤退した日本半導体産業は、大規模なロジック半導体であるシステム半導体に舵を切った。日本中の半導体メーカーが終結したコンソーシアムを設立し、国家プロジェクトも立ち上げた。しかし、全て失敗し、2010年以降は全く無策の状態が続いていた。
- 著者は日立製作所半導体事業部出身
- 技術者出身ならではの半導体技術に関する分かりやすい解説
- TSMCとASMLがなぜ半導体産業の根っこを牛耳るに至ったか
- 日本の強みとされる素材、一部の製造装置は生き残れるのか

③ 『増補新版 フェリカの真実』

- 立石泰則著、草思社（21年3月第一刷）
- フェリカの開発者で、現在はソニーを離れている日下部進は電子マネーが連立してしまった状況について、残念そうに語る。「本来は電子マネーが乱立するはずはなかったんです。ひとつの決済手段として、みんなが共通に使える電子マネーになるはずでした」
- ソニーが活かすことができなかったフェリカの可能性。
- だが退社した日下部氏と同じ六甲学園の出身で、投資銀行での様々な経験を積んだ房広治氏の出会いにより、日本初のデカコーン「GVE」が登場した可能性。金融セキュリティ技術を武器に虎視眈々とIPOのタイミングをうかがう。



共通する問題意識と課題は？

- 残念な日本企業。初のDRAM、太陽電池を始めて本格的実用に通じた技術、非接触IC.....
- 枚挙にいとまがない“宝の持ち腐れ”
- “総合電機”の限界か。水平分業という大きな転換についていけなかった日本企業
- 現場は分かっている、経営レベルに通じない？
- ほとんどが失敗に終わった官主導の再編などの産業政策
- ラピダスが試金石に